



# 出前講座報告書



福島県立医科大学

性差医療センター  
災害医療総合学習センター  
医学部公衆衛生学講座

平成28年2月29日(月) 福島市保健福祉センター



## 健診で気になる子の支援



健診で気になる子の支援というタイトルで、発達障害の定義、スクリーニング、そして具体的な支援のための保護者とのかかわり方までを学ぶ講義でした。平成27年度で一番多い参加者数から、このテーマの必要性が伺えました。



## グループワーク

大人数ではありましたが9グループに分かれて、具体的なケースについて、以下のような事項を話し合いました。

- ・どのようにアセスメントするか
- ・どのように親にアプローチをするか
- ・どのように親子を支援するか

支援については、子どもと親だけでなく、祖父母、園、そして専門機関の連携についてまで検討することができていました。



## 講師紹介



大阪府立母子保健総合医療センター  
臨床研究部 室長 植田 紀美子先生

自治医科大学卒業、米国ハーバード大学公衆衛生大学院卒業(MPH)、自治医科大学医学博士取得。大阪府立急性期・総合医療センター小児科、大阪府健康づくり感染症課主査、厚生労働省精神保健福祉課心の健康づくり対策官、米国ハーバード大学公衆衛生大学院研究員(日本学術振興会海外特別研究員)等をへて、平成20年より大阪府立母子保健総合医療センター勤務。現在、同センター臨床研究支援室長、遺伝診療科副部長として、障がい児等に関する研究や診療を行う。趣味は、ミュージカル鑑賞、マラソン。



# アンケート集計結果

参加者は60名、アンケート回収は49名でした。



評価項目	(そう)思う(※)
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	96%
時間配分は適切だった	86%
進行は適切だった	92%
研修の内容について	
講義について理解できた	92%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	94%
話し合いは今後の活動に役立つと思う	89%

\*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

研修内容については、ほぼ全員が理解でき、役立つと思うと回答しました。自由記載で多かった意見は、より丁寧な聞き取りと対応の必要性（11人）と、M-CHAT含むアセスメントの実践（8人）でした。また、複数名からもっと講義が聞きたかったというご意見もいただきました。



## 復習ポイント

- ・1歳6か月健診でどうしてASDスクリーニングが大事ななの？
- ・ASDを早期発見するため、健診での訴えのポイントと観察のポイントは？
- ・ASDスクリーニングの必要性をどうやって保護者に説明しますか？



## 編集後記



講師の植田先生には大阪からいらしていただき、お陰様で大変充実した研修会となりました。講義も演習も駆け足になってしまいましたが、来年度も企画したいと考えていますので、またのご参加をお待ちしております！

(後藤)



出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。